

消防学校だより

令和7年6月・7月号

発行年月日 令和7年7月31日
発行 宮崎県消防学校

救助科（入校）

6月16日（月）、第36期救助科に県内消防局・消防本部から10名が入校し、7月11日（金）までの約1ヶ月間、救助業務に関する全般的な知識、技術の習得、並びに同期との絆づくりに励みました。



総代 野邊 史弥（日南市消防本部）

救助科（安全管理と実技指導）

6月16日（月）、安全管理と実技指導を行いました。

「消防救助操作法の基準」を基本とし、訓練時の安全管理について共通認識を持つことを目的に訓練を行いました。

“三連はしご”一つとっても、各所属で所有しているものは仕様異なるため、各個人の手技の確認やチームで取り扱う際の取り決め事項など、訓練を一緒に行う上で必要なことを確認するとともに、高所訓練時に於ける安全マットの配置の仕方など、基本的事項について学びました。



救助科（身体管理と怪我防止）

6月17日（火）柔道整復師の新保 裕二氏から、身体管理と怪我防止について講義と実技をしていただきました。関節の可動域など、自らの身体を理解したうえでトレーニングを行うことで、長く良好な状態で身体を動かせるようにすること、そして、自らの身体が最大のツールである事を学びました。



救助科（農業機械事故対策）

6月18日（水）、JAみやざき、ヤンマーアグリジャパン、県農業普及技術課から講師に来ていただき、農業機械事故対策についての講義と、実機での展示をしていただきました。普段、農業機械に触れない隊員にとって、農業機械の構造の理解と対策は課題でもあるため、今後とも関係機関の協力を得ながら見知を深めていきます。



救助科(玄関ドアの構造と開放要領・ガラスの種類と強度)

6月18日(水)、株式会社LIXIL 藤井 潤一氏、AGC グラスプロダクツ株式会社 丸山 詠幹氏を講師に招き、玄関ドアの開放、各種ガラスの破壊を行いました。開口部の設定は、迅速な屋内進入にかかせない技術の一つです。

実際にドアや、強化ガラスを破壊することで、破壊要領を習得しました。



救助科 (エレベータ事故対策)

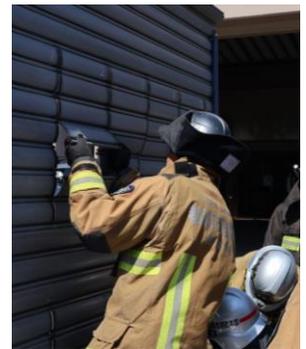
6月19日(木)、宮崎エレベーターサービスから講師に来ていただき、エレベータの構造や、救出要領について学びました。

大地震の際には、大きな揺れによりエレベータ内に閉じ込められる事案も多く想定されるので、安全確実迅速に救出活動ができるように訓練しました。



救助科 (シャッターの構造と開放要領)

6月19日(木)、文化シャッターサービス株式会社から講師に来ていただき、シャッター開放要領を実施しました。使用するエンジンカッターのブレードで切断後の作業が変わってくることなど、開放に必要な技術、知識を習得できました。



救助科 (次世代自動車の構造と事故対策)

6月20日(金)、宮崎トヨタ自動車株式会社サービス部技術グループ 大賀 崇史氏を講師に招き、自動車業界の動向、自動車の種類と構造、事故対応について講義していただきました。

燃料もガソリンなどの従来からの化石燃料をはじめ、電気など様々な方式があるなかで、交通事故時安全に活動ができるように見知を深めました。



救助科 (チェーンソー取扱い訓練)

6月23日(月)、宮崎機械 戸郷 洋逸氏からチェーンソーの構造、取扱い及び整備の方法等を学びました。午後からは、宮崎市内の伐採現場にて宮崎中央森林組合の指導のもと、チェーンソーの基本操作、鋸断、伐倒等の実科訓練を行いました。



救助科（外傷アプローチ・交通救助）

6月24日（火）、都城市消防局特別救助隊を講師に招き、交通災害救助訓練を実施しました。

交通救助では、対象車両の種別、車両重心などの状態を見て迅速に活動方針を決定し、救出活動と同時に危険排除を実施する事が求められるため、様々な事案を想定し訓練を実施しました。



救助科（電気災害）

6月26日（木）、九州電力送配電株式会社宮崎送配電事業所から講師を招き、配電設備の概要、配電線（停電）事故や並びに電気に関する基礎知識の講義を受けました。

現場における電気事故は、感電による受傷も多く、要救助者の救出には電力供給元の遮断と、感電のメカニズムを理解し活動を行う必要があります。

実際に校内の電柱で救出訓練を行うことで柱上での活動要領を学びました。



救助科（山岳遭難救助）

6月26日（木）・27日（金）、山岳救助訓練を実施しました。

1日目は入山前のプランニング、アンカーの構築と総合的な評価及び確保理論などの座学を行い、2日目に実施した双石山での実科訓練では、初日に学んだことの実践と救出訓練、搬送訓練を行いました。県土の約78%が山林である本県にとって、読図は山林火災時にも役に立つことを忘れてはなりません。



救助科（水難救助訓練）

6月30日（月）・7月1日（火）で水難救助訓練を行いました。1日目は座学にて水難救助概論を学び、本校プールにてシュノーケリングなどの基本訓練を行いました。2日目は、宮崎海洋高校の潜水プールを借り、グリーントダイバーズの 福田 道喜氏を講師に招き潜水訓練を実施しました。



救助科（ブリーチング訓練）

7月2日（水）、震災対応訓練事前訓練としてブリーチング訓練を実施しました。

本県は、南海トラフを震源域とする巨大地震が発生した場合、甚大な被害を受ける事が想定されており、倒壊家屋などからの迅速な人命救助活動が求められます。迅速な活動が出来るよう技術の習得を行いました。



救助科（航空消防）

7月3日（木）、県防災救急航空隊 曾根崎 友章隊長から、航空消防について講義していただきました。

本県の防災ヘリ運用体制や、ヘリの諸元についてなど、航空消防活動、要請時のポイントを交え航空消防事情について話していただきました。



救助科（海上保安庁の災害対策）

7月3日（木）、第十管区海上保安本部、鹿児島航空基地、宮崎海上保安部から海上保安官に来ていただき、海上保安庁の災害対策について講義していただきました。

他組織の体制や活動内容を理解するとともに、災害時には相互協力し、柔軟に対応することが防災関係機関には求められます。



救助科（国際消防救助隊）

7月4日（金）、令和5年2月6日に発生した、トルコ・シリア大地震へ国際緊急援助隊の一員として派遣された、宮崎市消防局 一井 亮太消防司令補から、国際消防救助隊の活動について講話していただきました。



救助科（USAR）

7月7日（月）、宮崎市北消防署東分署にて高度救助隊からUSARとは何なのか、個人装備はどのようなものなのか、求められるスキルは・・・などの講義と技術指導を終日実施していただきました。

また、全ての活動に3Sが必須である事、我々がプロとして消防救助に従事している以上、安全・確実な活動を圧倒的な速さをもって遂行できなければならない事を学びました。



救助科（災害救助犬）

7月8日（火）、NPO法人SEARCH DOG 人吉から講師として来ていただき、災害救助犬について講義を受けました。震災時、人の何倍もの嗅覚を活用し要救助者の捜索に大きな力を発揮してくれます。災害救助犬の能力と捜索時の救助犬への対応を学びました。



救助科（震災対応訓練）

7月9日（水）、南海トラフを震源域とする巨大地震が発生した想定で、震災対応訓練を実施しました。発災から初動活動、そして要救助者救出完了までの一連訓練を行いました。倒壊家屋などでの人命検索や救助活動の技術を確認するとともに、長時間の活動が自身に及ぼす影響（集中力の低下や肉体疲労）を体感し、有事の際にどう活動すべきか訓練しました。



救助科（学生企画訓練）

7月10日（木）、救助科課程の訓練総括として、学生企画訓練を実施しました。

「高所で作業していた作業員が転落し、宙づりになっている状態」と、「道路沿いの一般家屋にトラックが突っ込み、トラック運転手と、衝突された家屋内の居住者の挟まり」の二想定訓練計画、安全管理、実施場所選定、想定付与並びに振り返りの全てを学生主体で実施しました。



第36期救助科は、7月11日（金）全てのカリキュラムを修了しました。

初任科（消防操法訓練）

6月、消防操法（小型ポンプ操法、ポンプ車操法）を行いました。消防操法訓練では、消火活動時の操作の方法を学ぶため、基本動作を繰り返し実施しています。何故、放水の仰角が30度なのか、放水時の適正圧力が定めてあるのか等、決まり事の根拠を理解しながら消火活動の基本を訓練しました。



初任科（防災講座）

6月6日(金)、(公財)日本防災協会九州支部から講師に来ていただき、防災講座を行いました。防災規制の対象となる防災物品・防災制度並びに、日本防災協会が試験及び認定を行っている防災製品について知識を深めました。



初任科（NBC）

6月11日(水)、特殊災害の授業を行いました。特殊災害の特性と対策を学び、様々な環境下での装備品の取扱い方法と着装を体験しました。



初任科（プール清掃）

6月26日(木)、水難救助訓練を前に、水難救助訓練用プールの清掃を行いました。

1年間の汚れをきれいに洗い流しました。



初任科（水上安全法）

7月1日(火)、日本赤十字社から講師に来ていただき、水上安全法を実施しました。

陸上からの救助法や、着衣泳法等を行いました。



初任科（車両破壊訓練）

7月3日(木)、帝国繊維株式会社から講師に来ていただき、救助資器材を使用しての車両破壊訓練を行いました。様々な資器材を使用して自動車を破壊出来たことは、初任科生にとって、とても良い経験となりました。



初任科（応急はしご訓練）

7月4日（金）、応急はしご訓練を行いました。これまで、三連はしごの基本操作、ロープ基本結索を反復訓練してきました。今回、防火衣装着及び空気呼吸器を装備してから応急はしご訓練を実施したことで、安全を確保するための装備が身体に与える影響を確認しました。



初任科（視察研修）

7月16日（水）、17日（木）兵庫県神戸市、三田市へ視察研修に行きました。

16日（水）、神戸市の「人と防災未来センター」を訪れ、震災と復興のあゆみや世界の自然災害を学び、その後、神戸市消防局にて、阪神淡路大震災発災当時、現場活動にあたった神戸市消防局職員の方から話を聞くことができました。

17日（木）、「株式会社 モリタ」三田工場に視察に行きました。この工場では、消防ポンプ自動車から、はしご車や工作車まで製造しており、製造途中の各消防用車両を見れたことで、車両構造等への理解を深めることができました。



初任科（非常呼集）

7月某日の早朝、非常呼集を実施しました。配属されれば、いつ何時出動指令が掛かるか分かりません。心と身体のスイッチをすぐに入れることができるように、常に緊張感を持ちましょう。



初任科（消防活動訓練 ホーストレーニング）

ホーストレーニングを行いました。火災現場において消火活動を行うには放水が必要です。そのためにはホースを適切に延長し筒先まで水を送る必要があります。様々な環境下でこの基本的動作を安全確実に、迅速に出来るように繰り返し訓練を行いました。



8月の主な行事

- 初任科実務研修 8月 4日(月)～8月 9日(土)
- 通信指令研修 8月 26日(火)・27日(水)
- 無線資格取得講習 8月 29日(金)